

人権学習展開例（第1、2学年共通）



主題名 話そう みんなと

教材名 きこう はなそう かおを 見て

人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」

主題・教材について

最近学校で使われている教科書には、絵や写真などで車椅子や白い杖、点字、点字ブロック、盲導犬、手話などが取り上げられている。また、子どもたちは身近なところで、障害のある人に配慮した施設設備を目にしており、いろいろな障害があることを知っていると思われる。その中で聴覚に障害のある人とコミュニケーションをとるには、手話ができないといけな思っている子どもが多いと考えられる。この教材を通して、聴覚に障害のある人とのコミュニケーションの方法を知り、進んでかかわろうとする心情を育てたい。

ねらい

耳が聞こえにくいとはどういうことか、疑似体験をするとともに、コミュニケーションの方法を知り、進んでかかわろうとする心情を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○補聴器を見せ、何であるかを考えさせる。	一斉	○考えたこと知っていることを発表する。	○拡大した絵を掲示しておく。 ○補聴器は、耳が聞こえにくい人が音を大きくして聞く大切な道具であることを伝える。	補聴器 補聴器の絵資料 「きこう はなそう かおを 見て」 P26
展開	聞こえにくいって どんなこと				
	○聞こえにくいことを疑似体験させる。	個別 一斉	○耳を塞いで、先生の話を聞く。 ○どんなふうに聞こえ、どのように感じたかを発表する。	○普段子どもたちに話すときと同じように話す。 ○普段との聞こえ方の違いを体験し、よく聞こえないとどんな気持ちになったかを考えさせる。	
	○聴覚障害の原因を知らせる。	一斉	○聞こえにくくなる原因を絵や話から知る。	○交通事故や病気が原因で難聴になることもあることを知らせ、自分のこととして捉えられるようにする。	
	補聴器を はめたら 聞こえるの				
	○一人一人聞こえ方に違いがあり、補聴器をはめても聞き取りにくいことがあることを知らせる。	一斉	○補聴器をはめても聞こえにくい人がいることを知る。 ○聞き取りゲームをする。	○口形は同じでも言葉が違う場合があることを知らせる。 ○補聴器をはめても、聞こえにくい人には聞き分けにくい言葉があることを知らせる。	資料 P27
	話そう みんなと				
	○聞こえにくい人と話す方法について考えさせる。 ○コミュニケーションの手段をまとめる。	グループ ペア	○グループで聞こえにくい人に伝える方法を考え発表する。 ○聞こえにくい人とのコミュニケーションの手段を知り、実践してみる。	○グループ発表後、資料を見て誰にでもできる方法を伝え、ペアで実際にコミュニケーションの練習をする。	資料 P28～ P29
まとめ	○聞こえにくい人と話すときに気を付けることをまとめ、感想を交流させる。	一斉	○聞こえにくさや伝える方法を学習した感想を交流する。	○実践しようという前向きな考えを取り上げる。	

評価

耳が聞こえにくいとはどういうことか、疑似体験をするとともに、コミュニケーションの方法を知り、進んでかかわろうとする心情を養うことができたか。

